

事案名	新宿区の事案（東京都13-1）
分類	生産・保有 廃棄・遺棄 発見・被災・掃海等処理 その他 現在の状況
資料	<ul style="list-style-type: none"> ・「旧軍ガス弾等の全国調査結果報告（案）」資料1の2〔1〕 ・「陸軍科学研究所及第六陸軍技術研究所に於ける化学兵器研究経過の概要」昭和31年6月〔2〕 ・証言〔3〕 ・「旧軍ガス弾等の全国調査結果報告（案）」資料3の2No.12〔4〕 ・化学室担当者ノート「戦後における旧軍毒ガス弾等の処理の状況(14.6)」〔5〕 ・証言〔6〕 ・新宿区ホームページ〔7〕 ・「本邦化学兵器技術史〔年表〕」昭和32年〔8〕
資料内容概要	<p>東京都新宿区には、第六陸軍技術研究所が存在し、終戦まで化学兵器の研究、開発が行われていた。関係者によれば、終戦時に化学兵器を保有していたが、それらは消毒、中和、焼却等により廃棄されたとしている。</p> <p>生産・保有情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・証言等によれば、終戦時に、第六陸軍技術研究所には、イペリット・ルイサイト・青酸が0.1tが保有されていたと記載されている〔1〕〔3〕。 <p>廃棄・遺棄情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・毒物は保管し、米軍に引き渡したと記載されている〔2〕。 ・元第六陸軍技術研究所長の証言によれば、「終戦時に第六陸軍技術研究所構内において、消毒・中和・焼却などにより化学兵器を廃棄した」と記載されている〔3〕。 <p>発見・被災・掃海等処理情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和30年7月に、東京都新宿区大久保百人町にて、イペリット・ルイサイトの缶12個が発見されたと記載されている〔4〕〔5〕。 <p>その他情報</p> <ul style="list-style-type: none"> ・陸軍科学研究所の設備として、汚毒物投棄のための毒物廃棄井戸が存在したことが示されている〔2〕。関連する情報も証言として寄せられている〔6〕。

	<ul style="list-style-type: none">・陸軍科学研究所である戸山ヶ原科学研究所（第六陸軍技術研究所の前身）は、大正11年より各種化学剤の研究を開始し、大正12年よりイペリットとホスゲンの製造を開始したと記載されている〔8〕。 <p>現在の状況</p> <ul style="list-style-type: none">・「区では、毎年区内の地下水の汚染状況を調査しています。平成15年度は、旧陸軍の毒ガス被害が問題になったことから、従来から調査している有機塩素系の3物質に、全シアンとヒ素を加えた5項目について、従来の採水地点60か所に、百人町三丁目（旧陸軍技術研究所跡地）周辺16か所を加えた76か所で調査を行いました。結果は、全シアンとヒ素については、基準値を越えた地点はありませんでした。また、3か所で基準値を超えたテトラクロロエチレンは、主にドライクリーニングの溶剤として使用される揮発性有機化合物であり、旧陸軍毒ガスとは関係ありません。引き続き、周辺の使用事業所に、適正な使用方法等の指導を行います」と記載されている〔7〕。
--	---